

家庭発展 特別授業「バングラデシュでの支援活動」

9月3日(火)、特定非営利活動法人「国際エンゼル協会」の加藤圭二さん、桧垣保子さんにお越しいただき、前半は、バングラデシュの生活文化の紹介と児童養護施設の運営や子ども達への奨学金、学校建設、農村女性への識字教室などの現地への支援、その活動を支えるためのチャリティーバザーや子ども食堂など日本国内での活動について加藤さんに講演していただきました。最新情報として、7月に起こった学生デモについても映像とともに伝えていただきました。



バングラデシュの生活用具を手に取りクイズペアで、何に使うものか考えます。
← 凸凹している、これは…？

A) 生姜などをすりつぶす調理器具



出稼ぎも多いバングラデシュ
日本では考えられない光景です



6mもあるサリー。桧垣さん(右端)が着用されているのは日常着のサロアカミス、加藤さん(中央)が着用されているのが男性用のパンジャビです。

後半は民族衣装(サリー)の着付け実習でした。
桧垣さんによる代表生徒へのサリーの着付け師範の後、好きな色のサリーを選び、ペアになって自分達で美しいシルクのサリーを着付け、記念写真撮影を行いました。



昨年度に引き続き、2年生の「総合的な探究の時間」においてエンゼル協会主催の10月23日(水)のチャリティーバザーに向けた協力も行っており、校内には物品収集のための箱なども設置されています。授業後には現段階で集まっている物品の引き渡しも行われました。3年生である本講座受講生の中には昨年度この活動に関わった生徒もおり、活動をより身近に感じていたのではないのでしょうか。

授業後のレポートでは、「デモが激化し、無関係な人たちにも被害が出たことはよくなかったが、若者が中心となり政権を変えたことは希望のあることで若者が政治に関心を持っている証拠だと思った。日本では選挙の投票率が低かったりするが、無関心なままではだめだと思った。自分の考えをしっかりとって投票できるようにもっと関心を持ち、情報をチェックし、政治の仕組みなどについて学びたいと思う。」など、他国の現状から自国や自分の行動についても言及し、学びを深められた生徒が多かったです。